

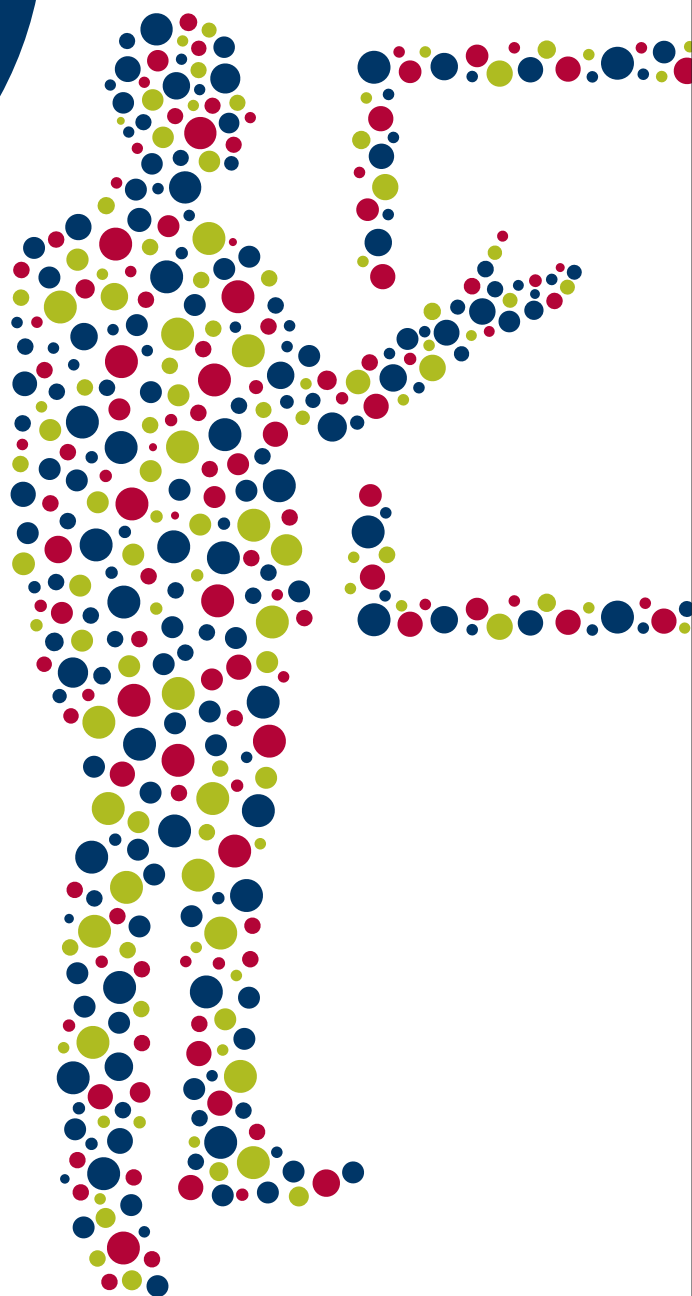


シンポニー[®] 皮下注50mg シリンジ、 オートインジェクター 自己注射確認用 チェックシート

このチェックシートは、医療関係者が患者さんと一緒に自己注射について確認することをチェックするものです。

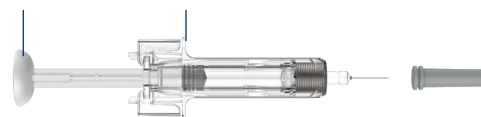
<シンポニー[®]の効能又は効果(抜粋)>

○中等症から重症の潰瘍性大腸炎の改善及び維持療法
(既存治療で効果不十分な場合に限り)



シンボニー[®]皮下注50mgシリンジ

プランジャー フィンガーフランジ



用法

初回投与2週後、以後は4週に1回、皮下注射

チェックした日(担当医サイン)

/	/	/
()	()	()

患者による自己注射に関して

注射日を把握している

シリンジの保管方法を理解している ※ 遮光し、凍結を避け2~8℃の冷蔵庫でケースごと保存 ※ シリンジは振らない

シンボニー[®]の自己注射の方法を理解している

体調の変化や気になる症状があらわれた場合、担当医へ連絡をとることができる

注射の準備

注射日や注射部位などを「私のシンボニー[®]治療日記」に記録する

注射の前に自分の体調を確認する(発熱や風邪などの症状の有無)

注射の少なくとも30分前に冷蔵庫からシリンジのケースを取り出す

ケースを開封してシリンジを取り出し、テーブルや処置台などの平らな場所に置き、室温に戻す ※ 温めない

使用期限が切れていないことを確認する(使用期限は、ケース側面およびシリンジ(薬液確認窓)に記載)

※ シリンジが破損していないことを確認する

注射に必要な物を準備する

(①シリンジ、②アルコール消毒綿、③綿球またはガーゼパッド、④絆創膏、⑤医療廃棄物容器)

注射部位を選ぶ(下腹部(へそ周囲5cmは避ける)、大腿部、上腕部(他の人が注射する場合))

※ 痛み、あざ、発赤のある部位、硬い、厚い部位、うろこ状、傷痕、肉割れがみられる箇所には注射しない ※ 同じ箇所に繰り返し注射しない

石鹸で手を洗い、注射する部位を消毒する ※ 消毒した箇所に、触れる、風をあてる、息を吹きかけるなどはしない

薬液の状態を確認する

※ 薬液に、濁り、変色、異物がみられる場合は注射しない ※ シリンジ内に気泡がみられることがあるが、正常な状態である

シンボニー[®]の注射方法

針カバーをシリンジから水平方向に外す

※ 注射直前まで針カバーを外さない。針カバーは付け直さない ※ 針にさわらない、針先に何も触れないよう注意する

フィンガーフランジのすぐ下を片方の手の親指、人差し指、中指で持ち、もう一方の手で注射部位の皮膚をつまみ、皮膚に対して約45°の角度で針を刺す ※ 筋肉内ではなく皮下に薬液を注入できるよう、十分な量の皮膚をつまむ

皮膚をつまんでいた手を放し、その指でシリンジをつかみ、フィンガーフランジ側の親指でプランジャーを押す

※ プランジャーを後ろに引かない。プランジャーが外れてしまったり、セーフティガードが誤作動を起こしてしまう可能性がある

※ プランジャーが奥に達して止まるまでゆっくり注入する

プランジャーを押していた指の力を抜く

※ 投与後に数滴の薬液のしずくがみられることがあるが問題はない

注射後の注意

使用後のシリンジは速やかに所定の医療廃棄物容器に廃棄する

※ 取り扱いには十分に注意して使用後のシリンジを医療廃棄物容器に入れ、担当医または薬剤師、医療機関の指示にしたがって廃棄する

注射部位を確認し、アルコール消毒綿で軽く押さえる

※ 少量の出血または薬液がみられる場合、アルコール消毒綿、綿球またはガーゼパッドで皮膚を押さえ、必要に応じて絆創膏を貼る

※ 注射部位を、こする、もむなどはしない

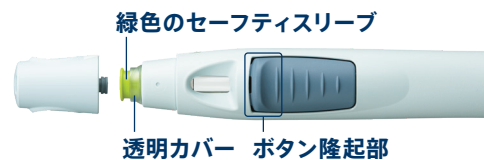
注射後に気がついたことを「私のシンボニー[®]治療日記」に記録する

注射後に体調の変化や気になる症状があらわれた場合、担当医へ連絡する

患者様のお名前

様

担当医署名欄

シンボニー[®]皮下注50mgオートインジェクター

用法

初回投与2週後、以後は4週に1回、皮下注射

自己注射確認用チェックシート

チェックした日(担当医サイン)	/	/	/
	()	()	()
患者による自己注射に関して			
注射日を把握している			
オートインジェクターの保管方法を理解している ※ 遮光し、凍結を避け2~8℃の冷蔵庫でケースごと保存 ※ オートインジェクターは振らない			
シンボニー [®] の自己注射の方法を理解している			
体調の変化や気になる症状があらわれた場合、主治医へ連絡をとることができる			
注射の準備			
注射日や注射部位などを「私のシンボニー [®] 治療日記」に記録する			
注射の前に自分の体調を確認する(発熱や風邪などの症状の有無)			
注射の少なくとも30分前に冷蔵庫からケースを取り出し、開封する。 ケースからオートインジェクターを取り出し、平らな場所に室温に戻す ※ この時点ではキャップは外さない ※ 温めない			
使用期限(オートインジェクター背面に記載)が切れていないこと、キャップに貼られているセーフティシールが破れていないことを確認する			
注射に必要な物を準備する (①オートインジェクター、②アルコール消毒綿、③綿球またはガーゼパッド、④絆創膏、⑤医療廃棄物容器)			
薬液確認窓から薬液の状態を確認する ※ 薬液に、濁り、変色、異物がみられる場合は注射しない ※ 気泡がみられることがあるが、正常な状態である			
注射部位を選ぶ〔下腹部(へそ周囲5cmは避ける)、大腿部〕 ※ 痛み、あざ、発赤のある部位、硬い、厚い部位、うろこ状、傷痕、肉割れがみられる箇所には注射しない ※ 同じ箇所に繰り返し注射しない ※ 皮下脂肪が少ない(痩せた)患者様の場合は、下腹部へ注射してください ※ 皮下脂肪の薄い部位への注射により、注射針先端が骨などの固い組織に接触して針先の曲がりが生じ、針が抜けにくくなる事例が報告されています。関節や骨などの固い組織から離れている部位に投与してください			
石鹸で手を洗い、注射する部位を消毒する ※ 消毒した箇所に、触れる、風をあてる、息を吹きかけるなどはしない			
シンボニー[®]の注射方法			
キャップをひねり、セーフティシールを破り、まっすぐキャップを外す ※ 注射直前までキャップを外さない ※ キャップは付け直さない ※ キャップを外した後にオートインジェクターを落とした場合は使用しない			
注射位置を決める ※ オートインジェクターは皮膚に対して垂直に当てる ※ この間、ボタンに触れる、押すなどはしない			
オートインジェクターを皮膚に押し当て、緑色のセーフティスリーブを透明カバー内にスライドさせる ※ この間、ボタンに触れる、押すなどはしない ※ 注射部位に強く押し当て過ぎないでください			
オートインジェクターを皮膚に押し当てたまま、ボタンを押して待つ ※ 1回目のカチッという音とともに薬液の注入が始まる、ボタンを押し続ける必要はない ※ この間、オートインジェクターを持ち上げない			
15秒程度待って2回目のカチッという音が鳴ったら、オートインジェクターを皮膚から離す ※ 音が聞き取れない場合は、ボタンを押してから15秒程度経過後に皮膚から離す ※ 投与後に薬液のしずくがみられることがあるが問題はない			
確認窓をチェックし、オートインジェクターがきちんと動作したかどうかを確認する ※ 注射が完了した場合、黄色の表示が確認窓のおよそ半分の位置に表示される			
注射後の注意			
使用後のオートインジェクターは速やかに所定の医療廃棄物容器に廃棄する ※ 取り扱いには十分に注意して使用後のオートインジェクターを廃棄袋に入れ、担当医または薬剤師、医療機関の指示にしたがって廃棄する			
注射部位を確認し、アルコール消毒綿で軽く押さえる ※ 少量の出血または薬液がみられる場合、アルコール消毒綿、綿球またはガーゼパッドで皮膚を押さえ、必要に応じて絆創膏を貼る ※ 注射部位を、こする、もむなどはしない			
注射後に気がついたことを「私のシンボニー [®] 治療日記」に記録する			
注射後に体調の変化や気になる症状があらわれた場合、担当医へ連絡する			

患者様のお名前 _____ 様

担当医署名欄 _____

2023年9月作成

(JPKK) (MTPC)
SMP-0305 SMP-435B-
SMP.Pt1 75.2 (審)23IX027